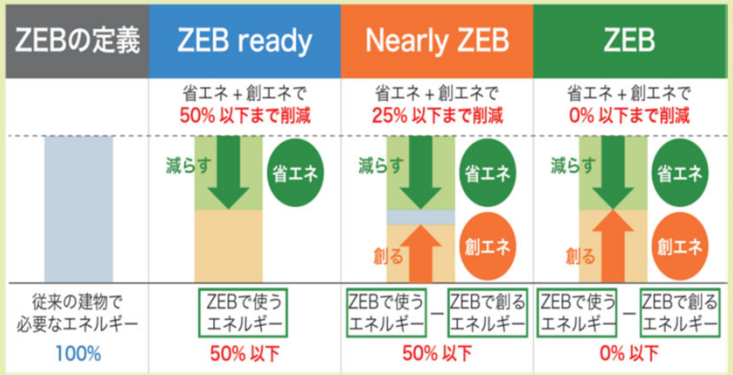
東北大学Green Goals Initiative［施設整備方針］

東北大学は、2030年度CO2排出量を50%削減（2013年度比）するとともに、2040年度のカーボンニュートラル実現を目指します

Net Zero Energy Building の整備

新築建物　Nearly ZEB を目指す
（省エネ50%以上＋創エネ25%以上）
既存建物　改修時に ZEB ready を目指す
（高気密、高断熱、高効率化により省エネ50%以上）



創エネルギー

再生可能エネルギー発電設備の整備・活用
第三者所有モデル（PPA※）の導入：
事業者は大学施設を活用して再生可能エネルギー発電設備を整備・管理し、大学は電力を購入
※Power Purchase Agreement

新しい技術の実験的設置
高効率自然エネルギー設備
本学の研究と連携した省エネ設備の実装実験

省エネ設備への更新

既存設備の更新
空調設備をGHPからEHPへ更新
照明器具のLED化
高効率機器への更新
自然採光・自然通風の活用、資源の有効活用
網戸、ソーラーチムニー等による自然換気
庇（ひさし）・ライトシェルフの設置
排熱や雨水等の活用

木材の積極的利用

木材利用の推進
CLT※など新たな建築材料・建築技術を活用するとともに、CO2を固定化する木材の積極的な活用を推進
※Cross Laminated Timber
（直交集成板）

効果検証と地域への普及

省エネ改修の実証フィールドとして効果を検証
仙台の気候に適した省エネ仕様**「東北大学施設モデル」**を策定・反映することで、グリーンキャンパスを実現
地域への普及により地域全体の施設の省エネ化に貢献